

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の強風軸対応の前線が、華南～沖縄地方～小笠原近海にのびている。前線付近では対流雲が発達し、激しい雨を解析して雷を検知。
- ② 500hPa 5760m付近で-12℃以下の寒気を伴うトラフが朝鮮半島付近と華北の大陸東岸を東進。トラフ前面の雲域が西～北日本に広がり、海上から流れ込む湿った空気の影響や日中の昇温の影響で大気の状態が不安定となり、強い雨や局地的に非常に激しい雨の降っている所がある。



主要じょう乱解説図

- ③ 500hPa 5580m付近で-24℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧がサハリンを東北東進。低気圧からのびる地上シアーラインが日本海北部を東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、1項②のトラフの接近に伴い南西諸島～日本の南では北上し、14日夜までにトラフに対応する低気圧が前線上の日本の南に発生して東北東進する。この低気圧は、15日は伊豆諸島付近を通過して、16日にかけて日本の東へ進む。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。南西諸島では15日にかけて、伊豆諸島では15日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。南西諸島では16日にかけて、小笠原諸島では14日は、伊豆諸島では15日は、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧や前線の周辺では強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。西日本の太平洋側では15日にかけて、東日本の太平洋側では15～16日は、強風や高波に注意。
- ② 1項②の寒気を伴うトラフは16日にかけて、日本海から東～北日本を通過して、日本の東へ進む。日中の昇温や上層寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。西日本では14日は、東～北日本では15日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の低気圧は、14日はサハリンを通過してオホーツク海へ進み、低気圧からのびるシアーラインが、15日にかけて北海道地方を通過する。また、16日も後続する上層トラフの影響を受ける。上層寒気、シアーライン周辺の下層暖湿気や日中の昇温の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。北海道地方では16日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の低気圧の発達程度や位置の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島120mm。

- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島4、関東・東海・近畿・四国3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無

発表の予定はない。